

10. 環境報告書の評価と編集後記

10.1 環境報告書の評価

■ 第三者有識者のコメント

宇部市市民環境部環境政策課長 林 孝之

山口大学と宇部市の間には、ばいじん汚染による公害克服の過程において、いわゆる「宇部方式」の成功に多大な貢献をいただいた歴史があります。あれから半世紀以上が経過し、環境問題がより複雑化する中、現在も宇部市環境審議会、宇部志立市民大学、宇部コンビナート省エネ・温室効果ガス削減研究協議会等に御協力いただいていることに御礼を申し上げます。

さて、貴学の医学部と工学部が本市に立地し、学内のエネルギーの約80%が本市で消費されていることから、地域の地球温暖化対策を推進する立場にある市としては、貴学の環境保全に対する姿勢や取組に大きな関心を持って、報告書を拝見させていただきました。貴学のエネルギー使用量は本市の事務事業のそれを上回る規模であり、3市にまたがる環境マネジメント体制を運営し、エネルギー消費原単位の削減や節水目標等を達成されている点は高く評価できます。今年度から追加されたエネルギーコストによる分析も職員や学生に対する見える化に効果があると感じました。

また、本市は国が選定するSDGs 未来都市の一つとして、市民や教育機関に対するSDGsの認知度向上に注力していることから、「SDGs 関連授業をシラバスに明記し、関係者に諸課題の解決貢献を意識付ける」という新たな取組については、他の教育機関のモデルになることを期待し、次年度以降の報告書にも進捗状況を掲載することを希望します。

さらに各章を見ますと、「COOL CHOICE」や「ぶちエコやまぐち」に関する取組など、本市との共通点が多いことから、学生の皆さんには、市で開催されるイベント等への積極的な参加をお願いします。地域の中における取組として「フードドライブ」が掲載されていますが、本市も2019年度からフードバンク事業を開始していますので、ここでも学生の皆さんの経験を生かし、相互に協力できることを期待します。

今、大学に求められるものは、これからの持続可能な社会づくりの担い手となる人材の育成と地球温暖化をはじめとする多くの課題を解決するための技術革新の発信源となることだと思います。その意味でも、新たに修士論文・卒業論文が掲載されていましたが、先生方の研究も含め、見る側には今の大学を知る貴重な資料だと言えます。今後も、貴学が地域と世界の舞台でその研究成果をどのように活用されているかについて、報告されることを期待します。

最後に、冒頭の学長トップメッセージにおいても、SDGsやSociety5.0といった話題に触れられていますが、世界の動きに比べて地域社会の認識はまだ深まっていないように感じられます。これから社会の大黒柱となる学生の皆さんの認識がさらに高まり、さまざまな場面において、リーダーシップを発揮される活動が増えていくことを期待します。



図10-1 宇部SDGs推進センター
オープニングセミナー（4月23日）



図10-2 子どもSDGs学習会（7月31日、8月1日）



4. 山口大学の環境目標と実施状況

「山口大学の環境目標」については、事業所全体として、組織として、構成員一人ひとりが自身の課題と解決方法であることを認識し全員参加で取り組みました。次のとおり環境目標と詳細な実施状況を報告します。

表4-1 山口大学の環境目標と実施状況

基本方針	分類	担当	具体的な取組	中期目標	2018年度 環境目標	実施状況	関連ページ	
事業活動における環境負荷の低減	温室効果ガス排出抑制	全学	省エネ法に基づく啓発活動によるエネルギー削減の励行	過去5年間平均原単位1%以上低減	エネルギー消費量を対前年度比、原単位1%以上の低減に努める 電気需要平準化評価を対前年度比、原単位1%以上の低減に努める	省エネ改修・省エネ機器への更新、節電実行計画の取り組み、エネルギー使用量管理の徹底などを実施しました。 中期目標 エネルギー消費量原単位 5年間平均で1.7%減 対前年度比1.6%減 電気需要平準化評価原単位 5年間平均で1.7%減 対前年度比1.3%減 温室効果ガス排出量原単位 5年間平均で2.3%減 対前年度比2.4%減	P12 P12 P12	
			温室効果ガス排出量の削減			温室効果ガス排出量を対前年度比、原単位1%以上の低減に努める		
			水資源の有効活用	全学	水使用量の削減に努める	水道の節水に努める	節水の推進	節水機器更新、水量調整、使用量管理の徹底を実施しました。 使用量前年度比3.0%減
	グリーン購入の推進	全学 財務部 施設環境部	摘要調達物品の環境配慮に努める	グリーン調達比率100%	グリーン調達比率100%	グリーン調達比率100%を達成しました。	P14	
	森林保護	全学	紙使用量の削減に努める	紙使用の計画的削減などに努める	紙使用量の削減とリサイクルの推進	両面印刷やNアップ印刷（複数の原稿を1枚の紙に印刷）、電子情報による管理、用紙の再利用、PCによる電子会議、古紙リサイクルなどの取り組みを実施しました。 紙類購入量前年度比増減なし 印刷出力枚数前年度比0.9%減	P14	
廃棄物の抑制	全学	廃棄物の再資源化に努める	廃棄物の減量化に努める	廃棄物の削減とリサイクルの推進	ゴミの分別収集の徹底、実験計画の検討及び見直し、化学物質使用量の削減、有機溶媒の再利用、家畜排泄物を堆肥としてリサイクルなどの取り組みを実施しました。 一般廃棄物量前年度比12.5%減 産業廃棄物量他前年度比17.6%増 廃液処分量前年度比11.3%増	P15, 22		
環境貢献技術の創出	環境研究	学部等	省資源・省エネルギー、地球環境保全等に繋がる研究開発	地球環境にやさしい研究開発の推進	環境に関する研究の推進	省資源・省エネルギー及び再生可能エネルギー、環境保全、生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用などの研究等を促進のため、関連情報の発信を行いました。	P23~29	
環境モラルの醸成	環境教育（環境基礎・環境教育カリキュラムの充実）	学生支援部 学部等	学生への環境教育の実施	学生に対する環境教育の徹底	実験排水の適正な処理の徹底 教育・研究等を通じて地球環境の負荷低減に努める	環境対策に関する教育、環境保全及び安全教育、実験排水や廃液処理について、授業やオリエンテーション等を活用して、教育の普及推進に取り組みました。	P21, 22 P30~34	
		全学 施設環境部	職員への環境教育の実施	職員に対する環境教育の徹底	職員への省エネ意識の啓発	環境対策に関する情報の提供（ホームページ）、省エネ啓発通知（年20回程度）、ポスター掲載などの取り組みを実施しました。	P33	
	学内環境美化	学部等 学生支援部 施設環境部	学内環境美化運動の促進	学内緑化及び学内一斉清掃の継続	学内緑化の推進及び学内一斉清掃の実施	キャンパスクリーン作戦（年2回）、構内除草作業・植木の剪定・芝管理などの取り組みを実施しました。	P34, 35	
地域との協調・コミュニケーション	地域住民との触れ合い	企画戦略部 総務企画部 学部等	各種媒体を通じた環境情報の発信	関係者に対する環境情報の提供	各種媒体を通じた環境情報の発信	環境対策に関する情報の提供、公開講座やセミナーの開催、構内環境の広報活動などの取り組みを実施しました。	P36, 37	
	職員・学生の自主活動による社会、環境貢献		環境啓発	地域貢献活動の推進	職員・学生の自主活動による環境貢献	地域クリーン作戦（年2回）、CO ₂ 削減県民運動の取り組みに参加しました。	P31, 33 P35	
法規制の遵守	化学物質の管理 水質汚濁防止	安全衛生対策室 学術研究部 学部等	化学薬品等の使用量の軽減	グリーンケミストリーの推進	化学薬品等の使用量の削減	実験計画の検討及び見直し、化学物質使用量の削減、有機溶媒の再利用などの取り組みを実施しました。 廃液処分量前年度比11.3%増	P21, 22 P32	
			化学物質取扱者への教育・訓練	排水基準の遵守	化学物質取扱者への教育・訓練の徹底	環境保全と安全教育、廃液処理教育などの取り組みを実施しました。	P22, 32	
			化学物質及び排水・廃液の適正管理	化学物質の適正管理の徹底	化学物質及び排水・廃液の適正管理	実験・研究室の巡視（基本週1回）により適正管理の徹底をしました。	P7	
	大気汚染防止	学部等	排出基準の遵守	排出基準の遵守	排出基準値以下の運転（ボイラー）	適正な運転及び維持管理を行い、排出基準値以下となりました。	P20	
各種産業廃棄物の処理	学部等 財務部 施設環境部	適正な管理と処理	適正な管理と処理	適正な管理と処理	廃棄物マニフェストの適正な管理と処理を実施しました。	P15~17 P20~22		
環境マネジメントシステムの整備・充実	環境配慮の取り組みのための管理体制の整備	全学	環境マネジメントシステム構築の推進	環境マネジメントシステムの定着・充実	環境マネジメントシステムの定着	環境マネジメント体制の円滑な運用及び環境目標の履行、組織内への数値目標・実績等の周知徹底を実施しました。 環境マネジメント対策推進会議：年5回開催、環境マネジメント対策部会：年3回開催	P6	